

「ワーク・まとめ」

キャリアデザイン(ワーク) 発問リスト

【自己表現力】

1	「あなたが思い描く、“自己表現力のある人”とはどのような人（または誰）ですか？」
2	「その人の持つ自己表現力とは、どのような力を言いますか？ 3つ挙げてください」
3	「いま、挙げた3つの表現力について、各表現力を100点で採点した際、現状のあなたは、何点くらいつけられますか？」
4	「上記を100点に近づけるために、どんなアクションを起こす必要がありますか？」
5	「では、上記を踏まえ、まず今週から出来る事にはどんなことがありますか？」

【自己紹介のスキル】

(※自己分析がある程度で来ているという前提)

1	「あなたは周囲の人に、どんな風に見られたいですか？」
2	「その理想の状態を100点として、現状は何点くらいつけられますか？」
3	「これまで、自己紹介が上手く行ってその後のコミュニケーションがうまくいった経験とはどのようなものですか？」
4	「それができた背景には、どのような理由、環境、心情などがあったと思いますか？」
5	「では逆に、どんな風に見られるのがいやですか？その理由はなぜですか？」
6	「これまで、自己紹介が上手くいかなくて、その後のコミュニケーションがぎくしゃくした経験はどのようなものですか？」
7	「そうってしまった背景には、どのような理由、環境、心情などがあったと思いますか？」
8	「上記を踏まえ、最初に相手とのコミュニケーションの土台を作るうえで、絶対に心掛けないといけないこととはどのようなものですか？」
9	「また、どんなツールがあれば助けになりますか？」
10	「これまで話して、今すぐにでも改善出来る事、1カ月かけて改善出来る事をそれぞれ3つつ挙げてください。」

【チームワーク】

1	「あなたの思い描く、理想のチーム（スポーツチーム、仲間、他なんでも）とはどのようなチームですか？」
2	「その理想のチームと、そうでないチームとを比べた場合、理想のチームにはなにがあるのでしょうか。3つ挙げてください。」
3	「上記を思い浮かべながら、あなたが組織に対して貢献できることはどのようなことですか？」
4	「それができた背景には、どのような理由、環境、心情などがあったと思いますか？」
5	「では逆に、どんな風にみられるのがいやですか？その理由はなぜですか？」
6	「これまで、自己紹介が上手くいかなくて、その後のコミュニケーションがぎくしゃくした経験はどのようなものですか？」
7	「あなたは就活の面接で、学生時代に、“チームに貢献した”または、“チームを引っ張った”という物語を語って、面接官が前のめりになって聞いています。それはどんな物語ですか？」
8	「上記を踏まえ、明日から物語創りの第一歩を踏み出すために、何をする必要がありますか？」

【コミュニケーション能力】

1	「あなたにとって、コミュニケーション能力のある人とはどのような人（または誰）を言いますか？」
2	「その人の持つコミュニケーション能力を3つを挙げてください。」
3	「いま挙げた3つの表現力について、各表現力を100点で採点した際、現状のあなたは、何点くらいつけられますか？」
4	「上記を100点に近づけるために、どんなアクションを起こす必要がありますか？」
5	「では、上記を踏まえ、まず今週から出来る事にはどんなことがありますか？」

【ロールモデルの発見】

1	「あなたにとって、理想の生き方をしている人はどんな人ですか？聴覚障害の有無にかかわらず二人挙げてください。マンガや小説に出てくる架空の人物でも OK です。」
2	「その人のどんなところに憧れますか？」
3	「その人がある日突然、聴覚に障害を持つことになりました。そして、その憧れの人物は、障害を抱えながらも以前と同じような生き方を継続しています。その人を支えているものはどんなものだと想像しますか？」
4	「逆にその人は、聴覚障害を持った人生の先輩であるあなたと会って、“貴方と会えて、一つの生き方を学ぶことができました”と言っています。その憧れの人物は、あなたのどんな生き方に学んでいるのでしょうか。」 「上記を踏まえ、気づいたこと、感じたこと、疑問に思ったことは何ですか？」
5	「ロールモデルに近づく、または、自分だけの生き方モデルを完成させるために、今週から一歩踏み出すことができるとしたら、どんなことですか？」

【手話通訳の活用】

1	「この企画に参加して、学んだことは何ですか？」
2	「では、今後、どのような場でそれを生かしていきたいですか？」
3	「手話通訳がいたら電話がきちんとできると思いますか？」
4	「できるのを 100 点とすると、あなたはどのくらいですか？」
5	「上記を 100 点に近づけるためにどんなアクションを起こす必要ありますか？」
6	「講演会で手話通訳の手話表現が下手であった時にどうしますか？」
7	「手話通訳とパソコン要約筆記のどちらかにしてくださいと言われたらどうしますか？」
8	「職場で会議の時間になっても手話通訳が来ない場合はどうしますか？」
9	「あなたは何人の手話通訳を知っていますか。あなたは何人の手話通訳を目指している学生を知っていますか。」

【支援機器の活用方法】

1	「この企画に参加して、使用してみたい支援機器はありましたか？それはなんですか？」
2	「では、今後、どのような場面で使っていきたいですか？そのためには、自分はどうすればよいと思いますか？」
3	「あなた自身に聴覚障害がなかったとして、別の聴覚障害者が同僚となった時にこれらの機器を使ってきちんと支援できることを100点とすると、今のあなたは何点ですか？」
4	「上記を100点に近づけるためにどんなアクションを起こす必要ありますか？」
5	「字幕付きと案内があったにもかかわらず映画の上映が始まっても字幕が付いていなかったとしたら、どんなアクションを取りますか？となりには人がいっぱい座っています。」

【補聴器の基礎知識と活用方法】

1	「この企画に参加して、学んだことは何ですか？」
2	「では、今後、どのような場でそれを生かしていきたいですか？」
3	「補聴器の基礎知識を同じ聴覚障害を持つ子どもにきちんと説明できることを100点とすればあなたは何点ですか？」
4	「100点に近づくためにどんなアクションを起こす必要がありますか？」

【交渉スキル】

1	「この企画に参加して、学んだことは何ですか？」
2	「では、今後、どのような場でそれを生かしていきたいですか？」
3	「社会に出た後も、様々な困難な場面が出てくるのが予想されますが、どのような場면을想像しますか？そんなとき、あなたはどうしますか？」
4	「あなた自身に聴覚障害がなかった場合、聴覚障害を持つ新人を迎えるにあたってどういう配慮が必要か、周りにどのように説明しますか。」
5	「どういうスキルを持っている聴覚障害者が強いと思いますか。」

【就職に備える】

1	「聴覚に障害がなければ、どんな業界で働きたいですか？ 3 業界挙げてください」
2	「聴覚に障害がなければ、どんな会社で働きたいですか？ 3 社挙げてください」
3	「聴覚に障害があっても、上記の業界や会社で採用される学生がいるとすれば、その学生は、どんな知識のある学生だと想像できますか？」
4	「では、どんな経験を持っている学生でしょうか？」
5	「では、どんなスキル、または資格を持っている学生でしょうか？」
6	「どんな人脈を持っている学生でしょうか？」
7	「通訳や支援機器をどのように使いこなしている学生でしょうか？」
8	「その学生を勇気づけている考えや環境とはどのようなものだと想像しますか？」
9	「今後、あなたがそのような学生に近づくとして、行動にブレーキをかけるものがあるとしたらどんなものですか？」
10	「それを取り除くには、何が必要ですか？」
11	「今述べたような学生生活を送り、第一志望群の会社に就職できた学生と、通常の学生生活を継続し、とりあえず“就職できる会社”に就職している学生とでは、30 才の時点でどんな差異があるとイメージしますか？または、大きな差はないと思いますか？」
12	「上記を踏まえ、今週から何かを始めるか、何かをやめるか、何かを変えなければならぬものがあるとしたら、どんなものですか？」

【キャリアデザイン時におけるフィードバックの質問事例】

例えば、下記のようなルールを設ける。

1. 一人の発表者に対し、グループ内から3人のフィードバックが出てくるまで次へは進まない。（“君たちはイケテルから、君たちの自発性に期待します“とっておく）
2. フィードバックは、感じたこと、疑問に思ったこと、気づいたことなどなんでもOK。
3. 発表者に対し、聞いている学生は、自身が持っているリソースを提供しあう。
（経験、人脈、ツール、他）
4. 発表者に対し、「こうしたらどう？」という提案をしあう。
5. 発表に対し、批判は一切禁止とする。キャリアデザインに優劣はない。
6. 最後に、「この日集まった学生たちが、これからの日本の聴覚障害者の生き方のモデルになるのだ」ということを共有する。
7. 目標宣言をしあい、その後も互いにこの10人が、それぞれの目標の進展具合がどうなったのかを共有できるサイト、またはMLを立ち上げる

※本リストは、佐々木宏氏（学習コーチアカデミー主席研究員）提供の資料「学習コーチング質問リスト」に、一部加筆・修正して作成したものである。

